

イグサ科 イグサ属

クサイ (草薺)

Juncus tenuis Willd.

自生環境

湿地、公園、道ばた など

原産地

日本在来

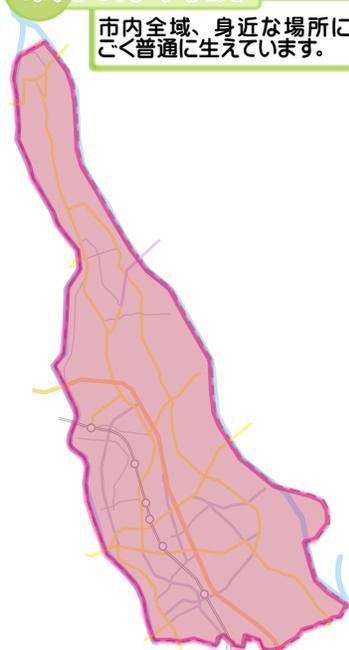
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域、身近な場所にごく普通に生えています。



特徴

- ☆ 身近な場所にごく普通に生えるツツツとした感じの地味な草です。人がよく通る「けもの道」のような場所で、踏みつけられ、泥をかぶりながらもたくましく育っています。ふだんは深緑色ですが果実期になると黄色みがかかった色になります。
- ☆ 初夏を中心に、茎の先に小さな薄緑色の花を咲かせます。花が開くのは朝のうちのみです。花びらは6枚で、外側は白くてうすい膜のようになっています。雄しべは6個あります。
- ☆ 花びらは花後も脱落しないでそのまま残り、その真ん中に少し縦長の果実ができます。花びらの長さで果実の長さはだいたい同じくらいです。熟したタネは、濡れるとベタベタとした透明な粘液に覆われさわるとべたつきます。これで人の足などにくっついてあちこちに運ばれていきます。

〇〇イと名がつく植物

イグサのようなツツツとした姿の草に対して、「〇〇イ」という名前がつけられているものがあります。イグサ科やカヤツリグサ科に多く見られる傾向です。日本語の形容詞の基本形も「～い」となることから、音の響きが面白く聞こえるものもあります。クサイ (草薺) もその一つでしょう。他には、イグサ科のホソイ (細薺)、カヤツリグサ科のフイ (太薺)、シカクイ (四角薺) などが挙げられます。



花が開くのは午前中だけ



花びらは果実と同じくらいの長さ

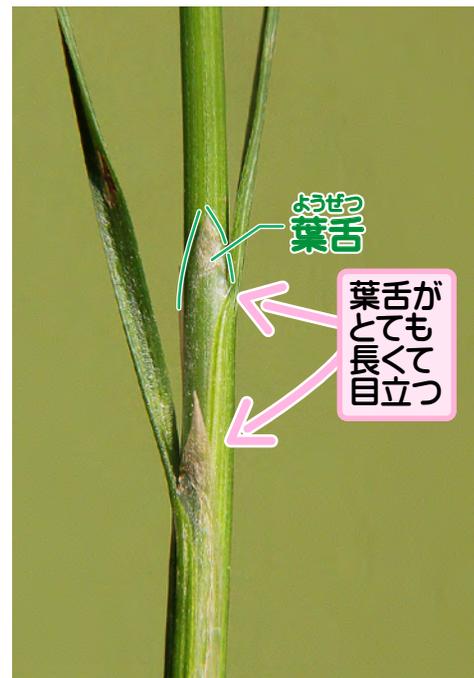
濡れると…

タネは濡れるとべたつく

果実ができて花びらは残ったまま



花や果実は茎の先につく



よぎぎ葉舌

葉舌がとても長くて自立つ



花びらは6枚で薄緑色



冬でも株もとに青々とした葉が残る



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

